

V2.0

個人SV検討事例

1. 相談者の属性

	受講者氏名	所属 ※該当に○	
	田中 いずみ	①地域包括支援センター	②居宅介護支援事業所
ケアマネジャーの実務経験	4年 2か月	その他の保有資格	介護福祉士
		③その他 ()	

2. 事例の概要

利用者名 ※仮名にしてください	Dさん	年齢	81歳	性別	女
あなたの関わりのきっかけ	H30.2. 要介護認定申請後、通所介護の利用を希望されて長女が最初に来談。担当CMとなった。			援助期間	1年 10か月

家族の状況

<p>家族構成図※同居者を囲む。それぞれ年齢、職業などを記入。</p>	<p>長男夫婦と孫2人と都内で同居。 長男(50歳) 会社員。通勤に片道2時間かかり多忙。 長男の妻(49歳) デパート店員としてパート勤務週3回各6時間。 孫(20歳・男) 大学生 孫(13歳・女) 中学生。発達に偏りがあり、不登校気味。 夫(死別) 5年前、急性心不全のため77歳で死去。 長女(54歳)：神奈川県在住。夫と二人暮らし。会社員。子供2名(29歳、26歳)はいずれも独立。 兄弟：Dさんは3人兄弟の第二子。兄(88歳)と妹(79歳)がいる。兄は神奈川県の特養入所中。妹は神奈川県で夫と二人暮らしで、Dさんの話し相手になっている。</p>
-------------------------------------	--

利用者本人の状況

要介護度	2	障害 自立度	J1・J2・A1・A2 B1・B2・C1・C2	認知症 自立度	なし・I・IIa・IIb IIIa・IIIb・IV・V
障害認定	身体障害()級 知的障害()級	障害・疾病の 経過と現状	平成30年2月要介護認定時にアルツハイマー型認知症の診断を受けた。高血圧で服薬中。		
ADL	移動	自立	入浴	自立・体を洗えているかわからない	
	食事	自立・食べたことは忘れる	更衣	自立・同じ服ばかり着る	
	排泄	自立	その他	買物：小銭は出せない。 外出：一人で行くが目的地にたどり着けないこともある。	
家事	台所に立とうとするが、何か作れるわけではない。		住居状況	持ち家	
経済状態	問題ない。年金や貯蓄あり。		コミュニケーション	短期記憶が低下していて、数分前のことは忘れてしまう。	
サービスの利用状況	通所介護1回/週				

要望・困りごと

利用者本人の要望・困りごと	息子の嫁がいないと不安	家族や関係者の要望・困りごと	<p>長男の妻は、パートの仕事をしていることや、発達に偏りのある娘について学校や相談室に訪問しなければならないことも多くあり、Dさんを四六時中見守ることはできないので困っている。</p> <p>長女はすでに子育ても終わって、仕事に忙しくしていたが、母親であるDさんの認知症を心配し、長男の妻に、仕事の途中でも電話をかけている。そのことを、長男の妻は「監視されているよう」と負担に思っている。</p>
---------------	-------------	----------------	---

3. 支援の経過

※時間経過に沿って支援内容とその結果を順に記載。

平成 29 年 8 月

Dさんが頻繁に長男の妻に今日の予定を聴くようになった。そのころ、待ち合わせに現れなかったDさんを心配して、Dさんの友人から家族に連絡があり、「最近Dさんの物忘れがひどい」と教えてくれたことから、長男の妻が地域包括支援センターに相談。長男はDさんの様子の変化をあまり深刻に受け止めなかったが、長男の妻が説得して近医を受診したところ「年齢相応」と診断された。長男は「心配しすぎ」と長男の妻に言い、長男の妻は夫に相談しづらい状況が現在も続いている。

平成 30 年 2 月

Dさんは友人との約束があるため自宅を出たが、目的地にたどり着くことができず、そのまま居場所が分からなくなってしまった。ちょうど長男の嫁がパート勤務で自宅を不在にしていたこともあり、Dさん友人からの電話を取った大学生の孫が、長男の勤務先に連絡を取り、長男から連絡を受けた長女が、警察に通報、夜遅くになって、2 駅先の警察に保護されていることが分かった。このことを契機に、長女が主導をとって、介護保険を申請、要介護 2 の認定を受けた。その際、アルツハイマー型認知症という診断も受けた。2 か月に 1 度、長男の妻の付き添いで通院しているが、なだめすかして行くことは長男の妻にとって大きな負担である。

要介護認定後、長女がDさんにデイサービスの利用を勧めてみたが、Dさんは「友人にはいつでも会えるのだから、知らない人の中に行く必要はない。」と拒んでなかなか利用に至らなかった。また、長男も「本人が行かないと言っているのなら仕方ない」とあまり協力的ではなかったところ、長女が「このまま家にいたらもっとボケる。それでもいいのか」とDさんに強く働きかけ、週 1 回デイサービスに行くことになり、現在までDさんは文句を言いながらも利用している。

長女は頻繁に電話をしてきて、病院はどうだった？ちゃんと介護しているか？ということを確認し、色々な思いつきを強く要求しているようである。

1 週間前

担当 CM 訪問時に、長男の妻が疲れ果てた様子だったため、CM が心配して声をかけると、「もうこの生活に限界」と涙ながらに訴えてきた。「一緒に方法を考えましょう」と声をかけて 2 日後に会いに行くことになっている。

4. 事例に対するあなたの考え・困りごと

現在の支援方針

課題	長男の妻の負担が大きいのに、長女の要求が大きい。
目標	長男の妻の負担を減らすこと。

あなたが事例について困っている／悩んでいる点

長男の妻の負担を理解しない長女に、どのように説明したらよいか。

長男の妻は、パート勤務もあるため、毎日 2 4 時間の見守りは難しく、自宅での介護や通院介助等への負担が大きい。さらに、長女の積極的すぎる介入で疲弊している。長女にはどのように説明したら、長男の妻の負担について理解してもらえるのだろうか。